第３章　教員及び教育支援者等

資料編

・資料索引

資料番号	資料名	ページ番号	関連資料
3－1－1	高等専門学校設置基準(抜粋)	3-1	高等専門学校設置基準
3－1－2	一般科目　科目別教員数一覧	3-1	学生課資料
3－1－3	一般科目教員の専門分野と準学士課程の担当授業表	3-2	総務課資料
3－1－4	専門学科教員数一覧	3-2	総務課資料
3－1－5	専門学科教員の専門分野と準学士課程および専攻科課程の担当授業一覧	3-3	総務課資料
3－1－6	各学科の学位取得者と企業経験者	3-5	総務課資料
3－1－7	「函館工業高等専門学校専攻科担当教員基準」に係る申し合わせ	3-6	規程集
3－1－8	一般科目専攻科担当教員の専門分野と担当授業表	3-7	総務課資料
3－1－9	特別研究の指導教員の学位取得状況と研究業績一覧	3-7	総務課資料, 函館高専紀要
3－1－10	専攻科における実験系科目特専教授(マイスター)一覧	3-7	専攻科 PBL 資料
3－1－11	教員の年齢構成	3-8	総務課資料
3－1－12	本校在職中に学位を取得した教員実績	3-8	総務課資料
3－1－13	教員交流制度実績	3-8	総務課資料
3－2－1	函館高専教員顕彰実施要項	3-9	総務課資料
3－2－2	函館高専教員顕彰　被顕彰者一覧	3-11	運営委員会資料
3－2－3	平成 23 年度校長裁量経費配分一覧(抜粋)	3-13	総務課資料
3－2－4	函館工業高等専門学校運営委員会業績評価部会要項	3-13	規程集
3－2－5	国立高等専門学校機構教員顕彰制度における本校教員の受賞例	3-14	本校ウェブサイト
3－2－6	平成 24 年度授業満足度調査用アンケート用紙	3-15	学生課資料
3－2－7	授業満足度調査評価の集計結果例	3-16	学生課資料
3－2－8	保護者による授業参観アンケートの集計結果例	3-17	学生課資料
3－2－9	授業観察シートの記入例	3-19	FD 委員会資料
3－2－10	函館高専における教員の資格基準	3-20	総務課資料
3－2－11	函館高専における教員公募要項例	3-21	総務課資料
3－2－12	教員人事(内部昇任)に関する手続きについて	3-23	総務課資料
3－2－13	非常勤講師任用数・単位数	3-24	学生課資料

3－2－14	函館高専非常勤講師任用に関する申し合わせ	3-25	規程集
3－2－15	非常勤講師任用に係る打ち合わせ会議議事録	3-26	平成 23 年度非常勤講師任用に係る打合せ会議　議事録
3－3－1	事務職員の配置と業務	3-27	事務部資料
3－3－2	技術教育支援センターの組織および業務内容	3-28	技術教育支援センター資料
3－3－3	技術教育支援センター支援業務表	3-29	技術教育支援センター資料
3－3－4	技術教育支援センターの研修体制	3-30	技術教育支援センター資料

資料３－１－１

高等専門学校設置基準（抜粋）

（中略）
（教員組織）
第六条　高等専門学校には，学科の種類及び学級数に応じ，各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。
２　教員のうち，第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は，次の各号に掲げる数を下つてはならない。
（中略）
四　入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は，十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数
（中略）
３　教員のうち，工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は，当該学校に一の学科を置くときは八人，二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において，一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは，これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。
（中略）
第七条　高等専門学校は，演習，実験，実習又は実技を伴う授業科目については，なるべく助手に補助させるものとする。
第八条　専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は，一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならない。

（出典　高等専門学校設置基準）

資料３－１－２

一般科目　科目別教員数一覧

人文系	専任	非常勤	合計	理数系	専任	非常勤	合計
国語	3	2	5	数学	5	5	10
社会	3	3	6	物理	3	1	4
倫理	0	1	1	化学	1	1	2
スポーツ科学	2	3	5	生物	1	0	1
英語	5	4	9	応用数学	1	0	1
ロシア語	0	1	1	応用物理	2	0	2
日本語	0	2	2				
ドイツ語	0	1	1				
合計	13	17	30		13	7	20

※非常勤講師は，平成24年4月9日付け採用

（出典　学生課資料）

資料３－１－３

一般科目教員の専門分野と準学士課程の担当授業表

科目名	職名	氏　名	専門分野	担当授業科目		学位・資格	教育目標
国語	教授	松代　周平	日本近代文学	国語	国語演習	修士(教育学	D,E
			国語教育	近代文学			
	准教授	泊　　功	漢文教育	国語	国語演習	文学博士	
			比較文化･比較文学	比較文学論	古典文学		
		鳴海　雅哉	中国古典文学	国語	中国語	修士(教育学	
			国語教育				
社会	教授	四宮　宏貴	東洋史	歴史II	ドイツ語	文学修士	D
			南アジア地域研究	政治と経済	現代社会		
		中村　和之	東洋史	歴史I	人間と文明II	学士	
			歴史教育	人間と文明III	現代社会	学芸員	
				科学技術史概			
	准教授	奥平　　理	都市地理学,経済地理学	地理	現代社会	文学修士	
スポーツ科学	教授	浦田　　清	スポーツ心理学, コーチ学	スポーツ科学	スポーツ科学概論	体育学修士	A
	准教授	清野　國安	体育方法学	スポーツ科学		学士	
英語	教授	奥崎　真理子	英語教育	英語表現	英語演習	M.A. (in Teaching)	E
			異文化理解教育	英語購読			
	准教授	田畑　緩己	英語教育, 英語英文学	基礎英文法	英語構文	学士	
		高橋　眞規子	英語教育学	英語講読	英語コミュニケーションIII	M.A. (in Telecommunicatio	
			テレコミュニケーション				
		臼田　悦之	英語教育学	英語表現	英語コミュニケーションI	修士(教育学	
				英語特講B	ビジネス英語演習		
		山下　純一	英語教育	英文法	英語演習	教育学修士	
				英語表現	英語購読		
数学	准教授	竹花　靖彦	数学(環論, 捩れ理論, 整数論)	基礎数学I	微分積分	理学博士	B
				応用数学	数学特講		
		佐藤　友信	流体工学	基礎数学I	微分積分	工学修士	
				代数幾何			
		新田　一夫	代数学	基礎数学I	微分積分	理学修士	
			数理論理学	代数幾何	数学演習A		
				応用数学			
		北見　　健	幾何学	基礎数学 II	微分積分	修士(理学)	
				代数幾何	数学演習B		
		下郡　啓夫	数理生態学, 教育工学	基礎数学I	微分積分	修士(理学)	
応用数学	准教授	菅　　仁志	素粒子論	応用数学	量子力学	博士(理学)	B
				機械英語演習			
物理	教授	長澤　修一	物性物理学理論	物理	情報処理基礎	博士(工学)	B
			理論化学物理	応用物理			
		佐々木　淳	科学教育(物理)	物理		学士	
	准教授	宮崎　真長	物性理論	物理		博士(理学)	
応用物理	教授	佐藤　博保	金属物性論, 強誘電体工学	応用物理	応用物理 II	工学博士	B,E
				固体物性論	応用数学 II		
				応用物理 I	応用数学 I		
	准教授	田淵　正幸	金属物性論	応用物理	応用数学 II	博士(工学)	
				金属物性論	機械英語演習		
化学	教授	福島　　純	無機材料化学	化学I	化学III	工学博士	B
				材料化学			
生物	教授	入江　俊明	動物生理学	生命科学概論	基礎生物学	博士(理学)	B
			比較生化学	基礎生物学	情報処理基礎		
				化学II	生物工学基礎		

平成24年4月1日現在

（出典　総務課資料）

資料３－１－４

専門学科教員数一覧

	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合　計
教授	3	3	4	4	4	18
准教授	5	5	5	4	4	23
講師	0	0	0	0	0	0
助教	1	1	2	1	3	8
助手	0	0	0	1	0	1
再雇用教員(教授)	1	1	0	1	0	3
非常勤講師	1	1	2	3	1	8
24年度合計	11	11	13	14	12	61

平成24年4月1日現在

（出典　総務課資料）

資料３－１－５

専門学科教員の専門分野と準学士課程および専攻科課程の担当授業一覧

機械工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
教授	祐延　悟	真空工学	機械概論 工業力学 機械工学実験(4年) 電気工学概論(5年) 機械英語演習 機械工作実習 総合演習（S2） 電気工学概論(4年) 卒業研究 真空工学(S2)	23		工学博士 第1種放射線取扱主任
	浜　克己	知能機械工学 システム工学	機械概論 数値解析 情報処理演習(4年) 自動制御 卒業研究 機構学 機械工学実験(5年) 機械英語演習 知能機械(S2)	3	有	博士(工学)
	山田　誠	精密加工学 設計工学	機械工作実習 情報処理演習(3年) 機械システム設計法 卒業研究 機械工作法特論 機械英語演習 機械工学通論(SK1)	4	有	博士(工学)
教授 （再雇用）	切明隆司	内燃機関 設計工学	内燃機関 エネルギー変換工学 卒業研究 機械概論 機械英語演習	20.5		
准教授	本村真治	流体工学	機械工学通論 機械設計製図(3年) 流体力学I 総合演習（S2） 機械工学実験(5年) 機械英語演習 機械概論 機械工学総合演習 流体工学 卒業研究	5		技術士 （機械部門）

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
准教授	古俣　和直	材料学 腐食防食工学	機械創造演習I 材料学(3年) 生産システム工学特別実 卒業研究 総合演習（S2） 機械工学実験(4年) 機械英語演習		有	博士(工学)
	近藤　司	生産工学 精密加工学 形状処理工学	機械概論 機械工作法 機械工学実験(4年) 機械英語演習 機械工作実習 卒業研究 切削工学		有	博士(工学)
	川上　健作	バイオメカニクス 材料力学	材料力学(3年) 機械工学実験(4年) 卒業研究 バイオメカニクス(S2) 機械設計製図 材料力学(4年) 機械英語演習 機械工学通論(SK1)		有	博士(工学)
	中村　尚彦	ロボット工学	複合創造実験 機械要素設計法 生産システム工学特別実験 機械工学実験(5年) 機械英語演習 機械創造演習Ⅰ 機械工学総合演習 論理回路 卒業研究		有	博士(工学)
助教	劔地　利昭	熱工学 熱流体工学	機械設計製図 複合創造実験 機械工学演習Ⅰ 卒業研究 熱力学 機械工学実験(5年) 機械英語演習 熱流体力学(S2)		有	博士(工学)
非常勤	秋葉機四郎	機械力学 内燃機関	機械力学	31		博士(工学) 技術士

電気電子工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
教授	木村　彰 （再雇用）	制御工学	エレクトロニクス入門 制御工学 パワーエレクトロニクス アドバンスト制御工学(S2) 工学応用実験I 卒業研究	30		博士(情報科学)
	石井　良博	電気磁気学 磁性材料工学	エレクトロニクス入門 電気磁気学演習 工学応用実験II 生産システム工学特別実験 電気磁気学II 高周波工学 卒業研究 総合演習（S2） 電子工学・電子材料工学			工学博士
	森田　孝	電磁界解析 電気電子回路	エレクトロニクス入門 電気回路演習I 情報伝送工学 電気工学通論(SK1) 総合演習（S2） 電気回路I 工学基礎実験II 電磁波工学 シミュレーション工学（S1） 電磁波工学特論（S1） 卒業研究	9	有 有	博士(工学) 第1級無線技術士
	高田　明雄	電子工学 電子回路	エレクトロニクス入門 電子回路II 工学応用実験II 複合創造実験 電子回路III 卒業研究		有	博士(工学)
准教授	山田　一雅	金属物理	エレクトロニクス入門 通信システム 電子デバイス工学 卒業研究 複合創造実験 工学基礎実験I コンピュータ工学	3		博士(工学)

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
准教授	柳谷　俊一	半導体材料工学	エレクトロニクス入門 電気回路II 工学応用実験I 半導体デバイス工学(S2) 電気回路III 総合演習（S2） 電気回路演習II 卒業研究		有	博士(工学)
	森谷　健二	生体工学 生理機能工学	エレクトロニクス入門 プログラミングII 計測回路工学 卒業研究 工学基礎実験I プログラミングIII 計測工学 信号処理II 計測システム特論(S2)		有	博士(工学)
	三島　裕樹	電力システム工学	エレクトロニクス入門 工学基礎実験II 生産システム工学特別実験 システム工学I 電力システム工学(S2) 電気回路IV 電気機器 卒業研究			博士(工学) 第2種電気工事士 第3種電気主任技術者
	湊　賢一	半導体材料工学 固体物理	エレクトロニクス入門 工学基礎実験I 電気磁気学I 工学応用実験II 科学技術英語 電気磁気学演習 卒業研究		有	博士(工学)
助教	山村　豊	情報処理	エレクトロニクス入門 工学基礎実験II 卒業研究 プログラミングI デジタル回路II 工学応用実験I			博士(工学)
非常勤	谷村　新	北海道電力（勤務先）	エネルギー工学	15		修士

備考：(S1):生産システム工学専攻1年，(S2):同2年，(K1):環境システム工学専攻1年，(K2):同2年，(SK1):両専攻1年専門共通，(SK2):同2年

専攻科特別研究担当（有）は平成24年度の特別研究指導教員を示す

情報工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
教授	國分　進	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬ 教育工学	情報工学実験I 論理回路 論理設計 情報工学実験IV コンピュータ･アーキテクチャII コンピュータ･アーキテクチャI 情報創造実験I 情報工学実験II 情報工学実験III 卒業研究			
	太刀川　寛	ソフトウェア工学	プログラミング演習(1年) プログラミング演習(2年) 情報創造実験I 情報工学実験III ソフトウェア工学 情報工学実験IV プログラミングI 情報工学実験II 卒業研究	19		工学修士
	先名　健一	電磁波理論 重力理論	情報創造実験I 情報理論 符号理論 卒業研究 数値解析論(SK2) 情報工学実験II 情報工学実験IV 応用解析学(SK1)	1		博士(工学)
	藤原　孝洋	情報通信システム 画像情報処理	情報英語演習 プログラミング基礎(SK1) ネットワーク特論(S2) 情報工学通論(SK1) 情報創造実験I 複合創造実験 総合演習（S2） 情報工学実験IV 情報創造実験I 卒業研究	24.8	有	博士(工学)
准教授	佐藤　恵一	教育工学	基礎工学電子I 情報創造実験I 情報ネットワーク 卒業研究 オペレーティングシステム 情報工学実験III 情報工学実験IV			工学修士
	河合　博之	グラフ理論	情報創造実験I 情報工学実験II プログラミング演習 プログラミングIII	1		博士(工学)

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
准教授	（河合　博之）		卒業研究 情報工学序説 アルゴリズム 情報工学実験IV			
	高橋　直樹	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語論 データベース	情報工学実験IV プログラミング言語論 データベース 卒業研究 基礎電子工学II 情報創造実験I 情報工学実験II	7		工学修士
	後藤　等	量子エレクトロニクス	情報工学序説 プログラミングIII プログラミング演習(3年) 工学実験IV 卒業研究 情報創造実験I アルゴリズム 情報工学実験II			修士(工学)
	東海林智也	多変量解析 信号処理	総合演習（S2） 情報工学実験IV プログラミング演習(4年) 卒業研究 情報創造実験I 信号処理 情報工学実験III 画像情報処理 ディジタル信号処理(S2)		有	博士(工学)
助教	小山　慎哉	ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀｰﾌｪｲｽ技術	情報創造実験I プログラミング演習(4年) ヒューマンインタフェース 卒業研究 情報工学実験II 生産ｼｽﾃﾑ工学特別実験 情報工学実験IV 複合創造実験 ディジタル通信 情報数学I 情報数学II		有	博士(工学)
	今野　慎介	生体工学	情報創造実験I 情報創造実験II 情報工学実験III プログラミング演習 プログラミング演習II 情報処理基礎	2		修士(工学)
非常勤	小西　修	公立はこだて未来大学理事（副学長）	オートマトン			博士(工学)
	宮本　衛市	元 公立はこだて未来大学教授	コンパイラ			修士
	由良　文孝	公立はこだて未来大学（副学長）	オートマトン			

物質工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
教授	日野　誠 （再雇用）	触媒化学	物質工学実験II:物理化学 物理化学III 物理化学II 機器分析 卒業研究			理学博士
	鹿野　弘二	無機材料	物質工学入門 無機工業化学 分析化学 物質工学実験I 物質工学通論(SK1) 物質工学創造演習 総合演習（K2） セラミックス特論 卒業研究	25		工学博士
	小原　寿幸	応用微生物学	総合演習（K2） 卒業研究 リサイクル工学(K2) 有機工業化学 生物化学 環境微生物工学(SK2)		有	工学博士
	小林　淳哉	触媒化学	無機化学 材料工学入門 無機材料工学 物質工学通論(SK1) リサイクル工学(K2) 物質工学創造演習 機器分析 環境ｼｽﾃﾑ工学特別実験 卒業研究 触媒工学(K2)	2		博士(工学) 危険物取扱者
	上野　孝	生物資源工学	設計製図 総合演習（K2） 環境生物学 微生物培養工学(K2) 技術論文技法 化学英語 卒業研究 リサイクル工学(K2)	2	有	博士(農学)
准教授	伊藤　穂高	高分子化学	化学演習 機器分析 応用物質工学実験II 物質工学通論(SK1) 物質工学創造演習 環境工学(5年) 卒業研究	1	有	博士(工学)

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
（准教授）	清野　晃之	高分子化学	環境システム工学特別実 高分子化学 有機材料工学 応用物質工学実験I 卒業研究 物質工学創造演習 機器分析 複合創造実験 リサイクル工学(K2)		有	博士(工学)
	宇月原　貴光	有機化学	有機化学I 物質工学創造実験 卒業研究 有機化学II 機器分析 構造有機化学(S1)		有	理学博士
	寿　雅史	電気化学	物質工学創造演習 化学工学I 化学工学II 計算科学 物質工学演習I 物質工学通論 応用物質工学実験I 卒業研究	3.1	有	博士(工学)
助教	田中　孝	水環境学	物質工学入門 物質工学実験III:有機化学 卒業研究 環境汚染分析法	2		危険物取扱者
非常勤	水上　正勝	地球科学 資源地質	物理化学I 地球環境科学 資源地球科学			理学博士
	蔵多　一哉	有機化学	物質工学実験III			理学博士
	長尾　輝夫	計算科学	情報処理I 情報処理II			

備考：(S1):生産システム工学専攻1年，(S2):同2年，(K1):環境システム工学専攻1年，(K2):同2年，(SK1):両専攻1年専門共通，(SK2):同2年

専攻科特別研究担当（有）は平成24年度の特別研究指導教員を示す

環境都市工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
教授	大久保孝樹	環境工学 衛生工学	卒業研究 水理学(2年) 衛生工学 環境保全			博士(工学)
	澤村　秀治	コンクリート工学	環境都市工学通論 コンクリート構造学(3年) コンクリート構造学(4年) 環境都市工学実験(4年) 施工技術 技術者倫理(SK1) コンクリート工学 複合創造実験 技術と社会 構造設計製図I 環境都市工学演習II 卒業研究 土木工学通論(SK1)	15	有	工学修士 技術士・建築部門 1級土木施工管理技士
	渡邊　　力	構造力学	環境都市工学通論 構造力学(2年) 専門英語演習 構造力学(3年) 構造力学(4年) 卒業研究 構造解析学(K2)	3		博士(工学)
	平沢　秀之	橋梁工学	土木工学通論(SK1) 技術と社会 環境都市工学通論 構造工学(5年) 構造設計製図II 卒業研究 地理 構造工学(4年) 環境都市工学実験(5年) 耐震工学 構造設計特論(K2)		有	博士(工学)
准教授	藤原　　隆	交通工学	環境都市工学通論 道路工学 施工管理 環境都市工学実験(5年) 計画数理 技術と社会 専門英語演習 交通工学 情報処理基礎 卒業研究			
	山崎　俊夫	景観工学	図学 情報処理演習II 創造デザイン演習 景観工学 卒業研究 都市工学		有	博士(工学) 土木学会認定 上級技術者

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位・資格
(准教授)	佐々木恵一	土地利用計画 都市計画	環境都市工学通論 測量学・測量学実習(3年) 測量学・測量学実習(4年) 専門英語演習 総合演習 測量学・測量学実習(2年) 卒業研究 計測工学			博士(工学)
	宮武　　誠	水文学	環境都市工学通論 水文学 水理学(4年) 環境都市工学実験(5年) 流体力学 土木工学通論(SK1) 水理学(3年) 水資源工学 専門英語演習 卒業研究 総合演習 流域環境特論(K2)	3	有	博士(工学) 技術士補
助教	小玉　齊明	岩盤力学	応用地学 複合創造実験 測量学・測量学実習(3年) 環境都市工学実験(4年) 卒業研究 環境都市工学通論 総合演習 技術と社会 専門英語演習 情報処理演習I 地盤工学 技術と社会			博士(工学)
	片岡　沙都紀	地盤工学	環境都市工学通論 測量学・測量学実習(2年) 土質工学(3.4年) 環境システム工学特別実 土木工学通論(SK1) 環境都市工学実験(4年) 卒業研究 リサイクル工学(K2)		有	博士(工学)
	永家　忠司	都市計画	環境システム工学特別実 測量学・測量学実習(2.4 創造デザイン演習 環境都市工学通論 環境都市工学実験 技術と社会			博士(工学)
非常勤	日下　靖博	(株)ｼﾞｬﾍﾟｯｸｽ北海道営業部部長(勤務先)	火薬学・同実験	32		甲種火薬取扱責任者

備考：(S1):生産システム工学専攻1年，(S2):同2年，(K1):環境システム工学専攻1年，(K2):同2年，(SK1):両専攻1年専門共通，(SK2):同2年

専攻科特別研究担当（有）は平成24年度の特別研究指導教員を示す

（出典　総務課資料）

資料３－１－６

各学科の学位取得者と企業経験者

平成24年4月1日現在

学科	教員数	学位				技術士	企業経験者数
		博士	修士	学士	準学士		
機械工学科	11(1)	9(1)	0	0	2	1	6(1)
電気電子工学科	11(1)	10	1(1)	0	0		4(1)
情報工学科	13(2)	6(1)	6(1)	0	1		5
物質工学科	14(3)	11(2)	0	2(1)	1		6
環境都市工学科	12(1)	9	1	2(1)	0	1	4(1)
一般科目（人文）	30(17)	4(3)	11(3)	14(10)	1(1)		5(5)
一般科目（理数）	19(7)	10(2)	5(1)	5(4)	0		1(1)

※（　）内の数値は，非常勤教員数（内数）

（出典　総務課資料）

資料３－１－７

○「函館工業高等専門学校専攻科担当教員基準」に係る申合せ

平成 22 年 3 月 24 日
制定

(講義科目担当教員)

第 1 条　専攻科の講義科目は，「函館工業高等専門学校専攻科担当教員基準」(以下「専攻科担当教員基準」という。)第 2 条に定める資格を有する者(以下「専攻科担当教員」という。)のうち，次の各号のいずれかに該当するものが担当するものとする。

一　博士の学位，修士の学位，学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位又は技術士の資格のいずれかを有する者

二　大学設置基準第 14 条の大学における教授の資格又は同基準第 15 条の准教授の資格のいずれかに相当する資格を有すると認められる者

2　前項第一号の博士の学位，修士の学位及び学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位については，外国において授与されたこれらに相当する学位を含むものとする。

3　第 1 項に定める専攻科の講義科目を担当することができる教員(以下「講義科目担当教員」という。)の資格については，専攻科担当教員基準第 3 条第 2 項に定める専攻科担当教員の資格の審査の際に確認し，同基準第 4 条第 1 項に定める専攻科担当教員の認定の際に併せて認定するものとする。

4　前項の認定は，毎年度実施するものとする。

(実験科目及び演習科目担当教員)

第 2 条　専攻科の実験科目及び演習科目は，すべての専攻科担当教員が担当することができるものとする。ただし，主な指導及び評価は，講義科目担当教員の資格を有する者が行うものとする。

(特別研究指導教員)

第 3 条　専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに学則第 31 条に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うことを目的として，専攻科担当教員の中から，当該学生ごとに特別研究指導教員を置く。

2　前項の特別研究指導教員は，主担当及び副担当の 2 名により構成し，そのうち主担当は講義科目担当教員の資格を有する者が担当するものとする。なお，主担当となることができる指導学生の数は，原則として各学年 2 名までとする。

附　則

1　この申合せは，平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　この申合せ施行の際，現に専攻科の講義科目を担当する教員については，この申合せにより講義科目担当教員の資格を有する者として認定されたものとみなす。

(出典　規程集)

資料３－１－８

一般科目専攻科担当教員の専門分野と担当授業表（平成24年度）

一般科目専攻科担当教員の専門分野と担当授業表

	職名	氏　名	専門分野	担当授業科目	特別研究担当の有無
国語	准教授	泊　　功	漢文教育、比較文化･比較文学	比較文学論	
社会	教授	中村　和之	東洋史、歴史教育	科学技術史概論	
	准教授	奥平　理	都市地理学，経済地理学	マーケティング	
英語	教授	奥崎　真理子	英語教育、異文化理解教育	ビジネス英語II	
	准教授	臼田　悦之	英語教育学	ビジネス英語演習	
		高橋　眞規子	英語教育学、テレコミュニケーション	ビジネス英語I	
化学	教授	福島　　純	無機材料化学	材料科学	
生物	教授	入江　俊明	動物生理学、比較生化学	生物工学基礎	
応用物理	教授	佐藤　博保	金属物性学、強誘電体工学	固体物性論	有
	准教授	田淵　正幸	金属物性学	金属物性論	
応用数学	准教授	菅　仁志	素粒子論	量子力学，応用解析学Ⅱ	

（出典　総務課資料）

資料３－１－９

専攻科特別研究の指導教員の学位取得状況と研究業績一覧

特別研究の指導教員の学位取得状況と研究実績一覧(共著含む)

学科名	教員数(平成23年度)	学位			論文			講演		
		博士	修士	技術士	21年度	22年度	23年度	21年度	22年度	23年度
機械工学科	4	4	0	0	2	10	9	21	21	21
電気電子工学科	4	4	0	1	6	7	2	22	10	8
情報工学科	3	3	0	0	2	2	4	4	2	2
物質工学科	4	4	0	0	4	5	7	21	14	3
環境都市工学科	5	4	1	1	27	15	10	13	8	15
一般科目	1	1	0	0	8	8	8	11	16	4

平成23年度の状況

（出典　総務課資料，函館高専紀要）

資料３－１－１０

専攻科における実験系科目特専教授（マイスター）一覧

氏名	専門分野	民間企業経験年数	資格
	機械工学	6年教育42年	
	土木・建築	8年官庁30年	技術士(建設部門)・コンクリート診断士
	機械工学・経済学	39年	
	電気工学	27年	
	電気工学・IT技術	23年	
	機械工学・IT技術	27年	
	情報技術	16年	基本情報処理
	土木工学	19年	技術士(河川)・畑地灌漑技士・1級土木施工管理技士
	土木工学	29年	技術士(総合技術管理部門・建設部門・上下水道部門)
	機械・応用物理	35年	放射線取扱主任者
	電気工学	23年	工事担任者:アナログ／デジタル1種
	機械工学・建築系	12年	
	機械工学	50年	
	機械工学	0年教職46年	
	機械・情報・経済	31年	
	電気・通信・省エネ	3年官庁37年	第2種電気主任技術者・電気管理士・熱管理士。甲種危険物取扱
	機械・IT・品質管理	42年	
	土木工学	2年官庁37年	技術士(建設、総合技術監理)1級技術監理、1級土木施工管理
	機械工学	4年官庁36年	公害防止管理者(水質第一種)

（出典　専攻科PBL資料）

資料３－１－１１

教員の年齢構成

平成２４年４月１日現在

年齢	機械工学科		電気電子工学科		情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		一般科目(人文)		一般科目(理数)		合　計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
60以上	2	1	2	0	3	2	2	3	1	0	2	5	4	6	33
55-59	2	0	1	0	1	0	3	0	1	1	3	1	0	1	14
50-54	2	0	0	0	2	0	2	0	2	0	4	3	4	0	19
45-49	1	0	3	0	0	0	1	0	2	0	2	2	1	0	12
40-44	0	0	2	1	2	0	2	0	1	0	0	3	4	0	15
35-39	2	0	2	0	2	0	1	0	2	0	1	1	0	0	11
34以下	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	2	0	0	7
24年度合計	11		11		13		14	(1)	12	(1)	30	(2)	20		111　(4)

※合計欄の(　)内の数値は，常勤女性教員数(内数)

(出典　総務課資料)

資料３－１－１２

最近5年間で本校在職中に学位を取得した教員実績

年度	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
人数	1	0	1	1	0
備考	博士(文学) 東北師範大学		博士(工学) 室蘭工業大学	博士(理学) 岡山大学	

(出典　総務課資料)

資料３－１－１３

教員交流制度実績

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
人数	2	1	0	0	1
備考	本校から呉高専　1 八戸高専から本校　1	本校から豊橋技科大　1			本校から福島高専　1

(出典　総務課資料)

資料３－２－１

函館工業高等専門学校教員顕彰実施要項

平成２４年１０月１６日全部改正

１．目的

本校または本校を含む高等専門学校の教育活動，学生生活指導，教育・研究を通じた社会への貢献及び管理運営の諸分野において顕著な功績を挙げた教員を表彰し，本校または本校を含む高等専門学校の教育活動等について充実と向上を図ることを目的とする。

２．賞の種類

校長賞として次の３部門の賞を授与する。勤務年数は教員交流制度により他高等専門学校・技術科学大学において勤務した期間も含む。

（１）教育業績賞（一般部門）・・・当該年度の１０月１日現在で本校における勤務年数が５年を超える教員（若干名）

（２）若手教育業績賞（若手部門）・・・当該年度の１０月１日現在で本校における勤務年数が５年を超え，かつ，当該年度の３月３１日における年齢が４０歳以下の教員（若干名）

（３）優秀教員賞・・・上記２部門の候補者のうち特に教育業績の優れた教員（各部門１名）
校長は優秀教員賞受賞者を「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づき，当該候補者として推薦する。

３．選考基準

本校または本校を含む高等専門学校における次に掲げる４つの活動分野において顕著な功績があったと認められる者を選考する。また，以下の活動分野のうち特に業績のあった活動分野に重点を置いて評価することも可能とする。若手部門では特に今後一層の功績を挙げることが期待される者を重視する。

①　教育活動

②　学生生活指導

③　教育・研究を通じた社会への貢献

④　管理運営（一般部門のみ）

４．被顕彰者の選考及び決定

（１）本校の教員は，該当すると思われる者について，推薦書（本校指定様式１，資料を添付すること）により教員業績評価部会に推薦する。（自薦も可とする。）

（２）教員業績評価部会は，教員顕彰候補者を選考し，校長に推薦する。

（３）校長は，運営委員会に諮り決定する。

（４）教員業績評価部会構成員が被推薦者となった場合は，その賞の審議に加わらないものとする。

（５）１人の教員に対して同じ種類の賞での２年連続しての顕彰は，原則として行わないこととする。

５．表彰

（１）校長から賞状を授与する。

（２）当該年度の教員会議の席上で行う。

（３）内外に公表する。

（出典　総務課資料）

（様式１）

函館工業高等専門学校教員顕彰推薦書
（　　年度）

所　属		推薦部門	
氏　名		年齢 （当該年度 3 月 31 日時点）	
推薦者所属		推薦者氏　名	
推　薦　理　由 （当該教員を選んだ経緯・根拠を含め，推薦する理由を 300 字程度で記入すること。客観的に証明される資料等を添付すること。）			

※推薦理由及び添付資料に関しては，被推薦者による記述及び提供も可とする。

（出典　総務課資料）

資料３－２－２

函館高専教員顕彰（校長賞）　平成 23，24 年度被顕彰者一覧

平成 23 年度　被顕彰者一覧

H23.5.30	資料
運営委員会	NO.5

平成23年度 函館高専 教員顕彰(校長賞)被顕彰者一覧(案)

番号	賞の種類	表彰の種類	所属・職名	氏　名	表彰理由
1	教育貢献賞		機械工学科 ・准教授	近藤　司	担当である工作法，工作実習などの授業において，前職(北大)の経験を活かしたものづくりに関する豊富な知識を，学生に分かり易く親切丁寧に教授することにより，学生から高い授業評価を受けている。さらに，学生委員，クラス担任など学生と直接触れ合う機会の多い分掌を通して，学生と対話することを心がける親身な指導により学生の信頼を勝ち得ている。その結果3年以上連続で学生が選ぶ機械工学科教員第1位に選出されている。
2			一般科目人文系 ・准教授	臼田　悦之	道南最高レベルの語学演習設備の導入に尽力し，どの学年にも使いやすく，かつレベルの高い英語教育を効果的に行う環境を生みだし，学生の学習意欲を向上させる英語指導の実践に多大の貢献をしている。その結果，開校以来初めて1年生で英検2級合格者を出すなど，英語教育効果が高まった。また，昨年度初めて中学3年生対象の英語授業講座を開講し，中学生に対する本校PR活動への貢献も大きい。
3			環境都市工学科 ・教授	渡邊　力	昨年度より，発達障がいを抱えた学生がいるクラスの担任を受け持ち，当該学生に担任としての綿密な支援を行うとともに校内の複数の組織，家庭，医療機関などと連携し，学習面及び生活面における支援体制を確立した。また，当該学生に起因する様々なトラブルについてクラスの学生に適切な対処法や行動様式を教えるなどきめ細かい指導を行うことによって，厳しい状況の中でクラス運営を全うしていることは本校の教育活動に対する大きな貢献と言える。
4	業績賞	地域貢献 管理運営 【優秀教員賞】	一般科目人文系 ・教授	後藤　哲	キャリア教育センター長として精力的に活動し，①他の教育機関と連携し年度途中の転出・転校を含む本校学生の進路の道筋を改善したこと，②思春期にある学生への適切な指導のあり方について教職員を啓蒙し意識改革を行ったこと，③複数の組織と連携し，学習支援室の立ち上げなど学生教育を主体とする組織の枠組みを作り上げたことなど，キャリア教育のあり方を確立するとともに本校の教育全般の組織的運営に対して幅広く貢献している。
5		管理運営	機械工学科 ・教授	切明　隆司	平成19年度から4年間に渡り，教務主事として当該委員会の担務はもとより，筆頭副校長として校長をサポートし，教育面での活動や環境の整備等を中心に，学校の管理運営全般について献身的な活動を行ってきた。特に入学者選抜実施に関しては，学内外において制度や運用の検討に対する中心的な役割を担い，その改善を含めて本校の教育の充実のために優れた成果を上げた。

（出典　運営委員会資料）

平成 24 年度　被顕彰者一覧

H24. 12. 10	資料
運営委員会	NO. 1

平成24年度 函館高専 教員顕彰被顕彰者一覧(案)

番号	賞の種類	表彰の種類	所属・職名	氏　名	表彰理由
1	教育貢献賞	【優秀教員賞】	環境都市工学科 ・教授	澤村　秀治	平成18～20年度において，経済産業省の「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」で採択された「函館圏における現場マネジメント能力に優れた技術人材の育成」を計画・立案し，社会人教育に力を注いだ。その後，これらの取組を自立化させ，「はこだてコンクリート塾」など，若手社会人のスキルアップ支援を継続的に実施し，技術士2次試験等の試験において，受講者の中から毎年継続的に合格者を出すという大きな実績をあげている。
2			電気電子工学科 ・准教授	三島　裕樹	原子力人材育成事業への対応等を通じて，本校における原子力関連教育・研究の実施および充実に努めた。外部評価としての JABEE 継続審査に向け，自己点検書の作成，並びに前回の指摘事項の改善への積極的な取り組みを行った。新学科のカリキュラムWGメンバーとして，特に複合領域としてのエネルギー履修コースの実験環境の整備やカリキュラム全体の基礎を作り上げることに貢献した。
3	若手教育業績賞		電気電子工学科 ・准教授	森谷　健二	共同テクノセンター副センター長として，高専テクノフォーラムでの本校活動状況の報告のほか，技術相談への対応，シーズ集や年報の編集に努めた。中小企業庁の「ものづくり人材育成・確保事業」において，自ら講師として親身な指導を行い，若手技術者のスキルアップに繋げた。新学科のカリキュラムWG等のメンバーとして，当該分野のほか，新分野への対応を見据えた実施体制を含むカリキュラム全体の構築に貢献した。
4		【優秀教員賞】	一般科目(人文系) ・准教授	鳴海　雅哉	学習支援室長として，低学年の学習習慣や基礎学力の定着を図る支援体制づくりを行うとともに，学習支援室だよりを発刊して学生，保護者への周知や報告を図り，対象学生のレベルアップに繋げた。独自の授業理解度満足道調査も実施した。第2学年主任として，学習面はもとより，基本的な生活習慣を身に付けさせ，規律を正すことに努めた。新学科のカリキュラムWG長として，一般科目の科目設定や内容の検討を含め，全体的な取り纏めを行い，現在のベースづくりに貢献した。
5			情報工学科 ・助教	小山　慎哉	就職先や進学先の検索を効率的に行うことができる Web ベースの進路検索システムを開発し，その管理運営に努力し，学生や進路指導担当の教員の利便性を高めるとともに，同システムを他高専へも提供し，好評を得ている。現在，このシステムを発展させモデルコアカリキュラムと連動した全国高専向け進路検索システムの実現に取組み，全国高専への波及を図っている。

（出典　運営委員会資料）

資料３－２－３

平成 23 年度校長裁量経費配分一覧（抜粋）

平成23年度校長裁量経費配分一覧(抜粋)

種目等	学科等	職　名	氏　　名	申請額	配分額	備　　考
教員顕彰	一般･人文	教授	[redacted]		200,000	優秀教員賞
	機械工学科	准教授			100,000	教育貢献賞
	一般･人文	准教授			100,000	教育貢献賞
	環境都市工学科	教授			100,000	教育貢献賞
	機械工学科	教授			100,000	業績賞

（出典　総務課資料）

資料３－２－４

函館工業高等専門学校運営委員会教員業績評価部会要項

平成 20 年 2 月 19 日
函高専達第 19 号

函館工業高等専門学校運営委員会教員業績評価部会要項

（趣旨）

第 1 条　この要項は，運営委員会規程第 7 条第 2 項に基づき，函館工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員業績評価に関し，必要な要項を定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条　部会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に定める教員顕彰に関すること。

二　函館工業高等専門学校教員顕彰（以下「本校教員顕彰」という。）に関すること。

三　その他教員の業績評価に関すること。

（教員業績評価部会構成員）

第 3 条　教員業績評価部会は，次に掲げる者をもって組織する。

一　教務主事，学生主事，寮務主事

二　専攻科長

三　その他校長が必要と認めた者

（国立高等専門学校教員顕彰）

第 4 条　第 2 条第一号に定める事項及び「教員の教育業績等評価」に基づき，国立高等専門学校教員顕彰候補者を校長に推薦する。

（本校教員顕彰）

第 5 条　第 2 条第二号に関する事項については，別に定める。

（事務）

第 6 条　教員業績評価部会に関する事務は，総務課人事係が行う。

（雑則）

第 7 条　この要項に定めるもののほか，部会の運営に関し必要な事項は部会が別に定める。

附　則

この要項は，平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

（出典　規程集）

資料３－２－５

国立高等専門学校機構教員表彰制度における本校教員の受賞例

（出典　本校ウェブサイト）

資料３－２－６

平成 24 年度授業満足度調査用アンケート用紙

平成２４年度授業満足度調査

函館工業高等専門学校FD委員会

本アンケートは、授業の改善を図ると共に皆さんの授業満足度を調査する事を目的として実施します。

【科目名：　　】【氏名：　　】

※氏名は、無記名でもかまいません。

次の質問に率直に答えて下さい。

1．あなたの学年、学科又は専攻を●で塗りつぶしてください。

実験実習

【本科】

1年	2年	3年	4年	5年	M	E	J	C	Z
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【専攻科】

1S	1K	2S	2K
○	○	○	○

2．あなたが受けているこの授業について、評価結果の欄の『○』のうち、該当するものを『●』黒く塗りつぶしてください。

※『5』：大いにそう思う、『4』：ややそう思う、『3』：どちらとも言えない、『2』：そう思わない、『1』：全くそう思わない

分類		評価項目	評価結果 5 大いにそう思う	4 ややそう思う	3 どちらとも言えない	2 そう思わない	1 全くそう思わない
授業評価	(A) シラバス	シラバスの内容は適切であり、授業はシラバスに沿って行われた。	○	○	○	○	○
	(B) 授業内容	実験実習の内容は貴方のレベルに合っており、適切であった。	○	○	○	○	○
	(C) 教員の説明	教員の説明は分かりやすく、十分に理解できた。	○	○	○	○	○
	(D) レポートの量	作成したレポートの量（枚数等）は貴方にとって適切であった。	○	○	○	○	○
教員評価	(E) 提出締切	レポート提出締切期日は貴方にとって適切であった。	○	○	○	○	○
	(F) 成績評価	この授業の成績評価は適切であった。	○	○	○	○	○
	(G) 板書・教材	文字の大きさが十分で、整理良くきれいに板書されていた。 パワーポイント等の説明ではゆっくりと分かりやすく説明していた。プリント資料は分かりやすかった。	○	○	○	○	○
	(H) 双方向授業	教員が一方的に説明するのではなく、学生との対話（双方向授業）を行っていた。授業中、適度に学生に問いかけをしていた。	○	○	○	○	○
	(I) 質問対応	教員は学生からの質問に適切に対応していた。	○	○	○	○	○
	(J) 注意	おしゃべりや居眠り、携帯電話等で遊んでいる学生には厳しく注意していた。授業態度が悪い学生には注意を与えていた。（おしゃべりや居眠り等が無かった場合は回答する必要はありません）	○	○	○	○	○
	(K) 声	聞き取り易く、メリハリのある言い方であった。ゆっくりと説明された。	○	○	○	○	○
	(L) 教員の努力	教員は熱心に指導に取り組み、努力の跡が見られた。	○	○	○	○	○
学生取組	(M) 学習態度	貴方は真剣にこの実験実習を行った。	○	○	○	○	○
	(N) 目標到達度	貴方はこの授業で努力し、学習到達目標を達成できた。	○	○	○	○	○
満足度	(O) 総合満足度	貴方はこの実験実習に全体的に満足している。この実験実習を受けたことによって貴方の学力が大いに伸びた。	○	○	○	○	○

3．この授業について、良かった点、改善してほしい点、教員への要望など自由に記述して下さい。教員の指導方法に不満がありましたら、遠慮なく記述して下さい。どんな事でも結構です。FD委員会では、貴方方のご意見・評価結果を記録し、教員へフィードバックします。

（出典　学生課資料）

資料３－２－７

授業満足度調査評価の集計結果例

機械工学科-実験実習-全体評価

A：シラバスの内容は適切であり、授業はシラバスに沿って行われた。

回答	頻度	%	平均：4.63
5：大いにそう思う	98	70.50	
4：ややそう思う	33	23.74	
3：どちらとも言えない	7	5.04	
2：そう思わない	0	0.00	
1：全くそう思わない	1	0.72	
欠落	0	0.00	

B：実験実習内容は貴方のレベルに合っており、適切であった。

回答	頻度	%	平均：4.41
5：大いにそう思う	76	54.68	
4：ややそう思う	48	34.53	
3：どちらとも言えない	12	8.63	
2：そう思わない	2	1.44	
1：全くそう思わない	1	0.72	
欠落	0	0.00	

C：教員の説明は分かりやすく、十分に理解できた。

回答	頻度	%	平均：4.33
5：大いにそう思う	69	49.64	
4：ややそう思う	51	36.69	
3：どちらとも言えない	16	11.51	
2：そう思わない	2	1.44	
1：全くそう思わない	1	0.72	
欠落	0	0.00	

D：作成したレポートの量『枚数等』は貴方にとって適切であった。

回答	頻度	%	平均：3.75
5：大いにそう思う	47	33.81	
4：ややそう思う	41	29.50	
3：どちらとも言えない	28	20.14	
2：そう思わない	13	9.35	
1：全くそう思わない	9	6.47	
欠落	1	0.72	

E：レポート提出締切期日は貴方にとって適切であった。

回答	頻度	%	平均：3.91
5：大いにそう思う	53	38.13	
4：ややそう思う	46	33.09	
3：どちらとも言えない	21	15.11	
2：そう思わない	13	9.35	
1：全くそう思わない	6	4.32	
欠落	0	0.00	

F：この授業の成績評価は適切であった。

回答	頻度	%	平均：4.28
5：大いにそう思う	67	48.20	
4：ややそう思う	47	33.81	
3：どちらとも言えない	23	16.55	
2：そう思わない	1	0.72	
1：全くそう思わない	1	0.72	
欠落	0	0.00	

（出典　学生課資料）

資料３－２－８

保護者による授業参観アンケートの集計結果例

学年	学科	授業科目（担当者名） ※：特別教室で実施	学生は真剣に授業を受けている。			教員はよく通る聞きやすい声で話している。			教員は学生が理解できるよう配慮して授業を進めている。			教員による板書や配布プリントは読みやすい。			回収数
			Yes	No	?	Yes	No	?	Yes	No	?	Yes	No	?	
1	M	情報処理基礎(祐延)※	6			6			6			3		2	6
	E	電気回路Ⅰ（森田）	1			1			1			1			1
		電気回路演習Ⅰ(森田)	4			4			4			3		2	4
	J	国語(鳴海)	11			11			10		1	10		1	10
	C	物理(佐々木(淳))	8			8			7			8			8
	Z	応用地学(小玉)	4			4			4		1	3		1	4
2	M	機械工作法(近藤)	3		2	5			5			2		3	5
	E	微分積分(新田)	3			3			2		1	3			1
	J	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬｰⅠ(國分)※	2			2			2			1		1	1
	C	無機化学(小林)	6			6			6			5			6
	Z	国語演習(泊)※	3		2	5			5			2		3	5
3	M	材料力学(川上(健))													
	E	計測工学Ⅰ(森谷)	2	1		2	1		2		1	2	1		3
	J	アルゴリズム(後藤)	1			1					1	1			1
	C	微分積分(竹花)	2	2	1	4	1		3	1	1	3	1	1	5
	Z	スポーツ科学(浦田)※													
4	M	計測工学(山田(誠))※	1			1			1			1			
	E	高周波工学(石井)	3			3			2		1	1		2	3
	J	プログラミング演習（東海林)※	2			2			2			1		1	1
	C	無機工業化学(鹿野)	4		2	4		1	2		3	3		2	5
	Z	水理学(宮武)※	3			3					3	3			2
5	M	流体工学(本村)	6			6			5		1	5		1	6
	E	コンピュータ工学(山田(一))※	2			2			1		1	1		1	1
	J	情報英語演習(藤原(孝))	3			3	1		2		1	4			3
	C	有機工業化学(小原)	5		1	5		1	5		1	4		2	6
	Z	応用数学Ⅱ(菅)													

《感想から》
１．肯定的な内容
○とてもわかりやすい授業でした。
○とてもしんけんな姿を見れてよかった。
○楽しい授業でした。
○とても分かりやすく，あきさせない！良い授業と受講態度でした。
○学生への細かな配りょがあり，素てきな授業でした。
○誰が聞いてもとてもわかりやすい授業でした。
○ポイントを明確にしているところが良かったと思います。
○学生さんたちが楽しそうに授業を受けていて，とてもよいふんいきでした。
○エクセルについてでしたが，パソコンの配置・内容すべてにおいてめぐまれた環境での授業でした。
○授業内容の説明や板書が非常に行き届いている印象を受けました。学生の態度も積極的に感じられました。
○真剣に授業を受けていて，感心しました。
○昨年の授業参観の時はあまりにも私語が多くひどいという感じに思えたが，今回は静かで生徒も授業をきちんと受けているように思いました。この差は学年の違いなのか，先生の違いでこうなのか？
○みんなよく発言し，楽しくわかりやすい授業でした。
○私にはムズカシすぎてよくわからない授業でしたが，生徒は一生けん命ノートをとっていて頑張ってるなと感じられました。
○ある先生の授業をみたかったので楽しめました。中学とは違うので授業はとても難しかったですが…。
○親の私が聞いても楽しいと思えました。
○昨年とはまったく様子がちがい，おどろきました。大変立派な授業態度です。とても難しいことを学習しているんですね。みなさんがんばってください。
○難しいなと思いました（学生たちは難しい内容に取り組んでいるのですね…）。
○学生たちのプレゼンの様子を初めて見せていただき，とっても興味深いものでした。準備も含め，時間・手間をかけて，チームワークも生み出されていたようです。まだまだ伸びしろのある学生たちのこれからの頑張りに期待できます。
○皆さんとてもまじめに授業を聞いていて好感が持てた。これからも頑張ってほしい。
○授業を楽しそうという言葉がふさわしいかどうかわかりませんが，調べたことを人に伝える力を養う授業，グループごとに，知恵を出し合いくふうしているのがとても感じとれた授業でした。

２．問題点を指摘する内容
●生徒がうるさい。
●遅刻してくる学生，多過ぎ。物質・情報何も指導していないのですか？
●遅刻者が多いと感じました。携帯の音が授業中鳴ったので，マナーやモラルを学生はもっともった方がよいと思います。
●特に意味がわからないに二重まる。
●後方の一部の学生が雑談をしていて授業を聞いていなかった。
●昨年は天気が良いせいと思ったが，今年は曇りにもかかわらず教室が暑いと思った。もう少し室温を下げても良いと思う。
●学生は外来者にあいさつ位した方がよいでしょう。
●教室にはなんとなく入りにくいです。
●ときどき聞き取りにくい。
●とても真けんに授業を受けていたが，一部おしゃべりをする子もいたので少しがっかりした（昨年より少しざわついているような…）。
●授業にあきて身が入らない子もいたのが残念です。机の上にいらないものが多すぎ。

（出典：学生課資料）

資料３－２－９

授業観察シートの記入例

2012 年度　授業観察シート　　函館工業高等専門学校 FD 委員会

学年学科	4M	科目名	流体力学 I
実施日	12 月 14 日(金)	担当教員氏名	本村　真治
観察教員氏名	川上　健作		

1. 授業観察教員は、観察結果欄に**(++):特に優れている，(+):十分である，(－):改善が必要、とコメント(任意)**を記入してください。

分類	観察項目		観察結果	コメント(任意)
教員	板書教材	・文字の大きさが十分で、板書の構成が後からでも見易い。パワーポイントや OHP での説明では学生にノートを取らせる時間を与えている。プリント資料は分かりやすい構成になっている。	(　＋　)	特に問題ありません．板書もきれいでした．
	声	・聞き取り易く、メリハリのある言い方である。	(　＋　)	
	授業構成	・授業開始時に、本時の学習目的や前時との関連を説明している。	(　＋　)	
		・学生の興味や理解を促進させる工夫をしている。	(　＋　)	
		・シラバスの学習到達目標が明確で、適切である。	(　＋　)	
		・授業の展開が論理的で、分かりやすい授業の進め方をしている。	(　＋　)	
	指導の工夫	・クラス全体に目配りをして、授業を進めている。	(　＋　)	学生に順番にあてて計算させ，双方向の授業形態となっていました．居眠り学生は何人かおりましたが，寝ている学生にあてるなどして注意していました．
		・一方向ではなく、学生との対話(双方向授業)が行われている。適度に学生に問いかけをしている。	(　＋＋　)	
		・学生からの質問に適切に対応している。	(　＋　)	
		・おしゃべりや居眠り、携帯電話で遊んでいる学生等には厳しく注意している。授業態度が悪い学生には注意を与えている。(おしゃべりや居眠り等がない場合には記入の必要はありません)	(　＋＋　)	
学生	学習態度	・学生は真剣に授業を受け、授業内容を理解している様子である。学生はきちんとノートをとっている。	(　＋　)	ほとんどの学生はまじめに授業を受けていました．
教員	総合評価	・本授業は総合的に見て、良い授業である。学生が満足している様子が伺える。	(　＋　)	

2. 他にコメントや、全体的に気づいたことがありましたら、こちらに記入をお願いします。どんなことでも結構です。

授業担当教員は以下の事項を記入し、自己評価をして下さい。

反省点や今後の改善策等：

数名、寝ている学生が居ました。なるべく質問するなどしてはいますが、学生が眠くならないような授業を目指したいものです。

（出典：FD委員会資料）

資料３－２－１０

改正高専設置基準に基づく新しい教員組織に対応した
函館工業高等専門学校における教員の資格基準

１．

２．　**教員の資格（平成 19 年 4 月 2 日付け以降に各職種に発令される新任者）**

（１）教授（Professor）

改正高専設置基準に定められた教授の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）次の学位または資格を有すること

イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，博士の学位（同等の専門職学位を含む），技術士等の資格または相応しい優れた業績

ロ）一般科目人文系にあっては，博士または修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績

２）専門分野における特に優れた教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力，組織を運営し統括する能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（２）准教授（Associate Professor）

改正高専設置基準に定められた准教授の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）教授の資格に相当する学位，資格等または業績を有すること

２）専門分野における優れた教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（３）講師（Lecturer）

特段の必要性がある場合を除き，常勤の講師はおかない。

ただし，常勤の講師をおく場合は次のとおりとする。

改正高専設置基準に定められた講師の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）教授の資格に相当する学位，資格等または業績を有するか，またはそれを取得する見込みが極めて高く，次の学位等を有すること

イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績

ロ）一般科目人文系にあっては，相応しい学位，資格または業績

２）専門分野における優れた教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（４）助教（Assistant Professor）

改正高専設置基準に定められた助教の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）教授の資格に相当する学位，資格または業績を有するか，またはそれを取得する見込みが高く，次の学位等を有すること

イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績

ロ）一般科目人文系にあっては，相応しい学位，資格または業績

２）専門分野における教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

次の各項目の何れかに該当する者を助教とする場合には，任期を付すものとする。任期は３年とし，審査に基づき１回に限り更新できるものとする。

１）教授の資格に相当する学位，資格または業績は有しないが，それを取得する見込みが高い者

２）教育に関する経験（ポスドク，ＴＡ等の経験を含む）がなく，教育上の能力を見極める必要のある者

任期を付した助教を任用した場合，任期満了時（あるいは必要に応じて任期途中）の審査は，教員選考委員会において実施する。

審査基準と任期満了時の処遇等については，以下のとおりとする。

１）任期途中での審査は，当該助教が所属する学科等の主任からの申し出により実施する。ただし，その申し出は，任期満了の７ヶ月前を過ぎてはならないものとする。

２）任期満了に伴う審査は，当該助教が所属する学科等の主任からの申し出の有無にかかわらず，任期満了の６ヶ月前に実施する。

３）学位，資格または業績の取得に関する審査においては，それを取得したか，任期満了時点までに取得することが確実である場合（証明書等の明確な裏付け資料が必要）において，合格とする。

４）教育上の能力に関する審査においては，明確な裏付け資料等に基づいて「能力がある」と評価される場合に，合格とする。

５）合格となった場合には，任期を付さない助教として継続任用する。

６）不合格となった場合には，その決定に対する異議申し立て（不合格通知後 2 週間以内）とそれに対する審査（異議申し立て受領後 1 ヶ月以内に審査結果を決定）を経た上で，それが確定した場合において，任期満了時点で解雇する。

ただし，函館高専における教育を実施する上で特に必要があると判断され，また当人の同意がある場合においては，助手（または技術職員）として任用を継続することができるものとする。

（５）助手（Assistant）

特段の必要性がある場合を除き，助手はおかない。

ただし，助手をおく場合は次のとおりとする。

改正高専設置基準に定められた助手の資格を有する者（以下に該当する者）

・　学士もしくは短期大学士の学位または準学士の称号を有する者

（出典　総務課資料）

資料３－２－１１

函館高専における教員公募要項例

函館工業高等専門学校一般科目（理数系）数学教員の公募

１．職名及び人員：　准教授又は助教　１名
２．所属学科：　一般科目（理数系）
３．専門分野：　理学・工学系における数学に関連する分野
４．担当予定教科：数学及び応用数学（高等学校から大学工学部程度までの内容）
５．応募資格：
（１）修士以上の学位を有するか取得見込みの方，又は教育もしくは研究において同等の実績を有する方
（２）高専における教育，研究，学生指導及び学生支援に理解と熱意のある方
※ 本校は第３次男女共同参画基本計画，第４期科学技術基本計画及び国立高等専門学校機構男女共同行動計画に基づき，女性研究者の増加を目指しておりますので，女性の方の応募を大いに歓迎します。
６．採用予定日：平成２４年１２月１日～平成２５年４月１日の間のなるべく早い時期
７．応募期限：　平成２４年１０月３１日（水）
８．提出書類：
（１）履歴書（本校様式，写真貼付）
（２）教育・研究業績目録（本校様式）
（３）研究業績概要（Ａ４，1200 字以内でこれまでの教育・研究業績全般について記述のこと。書式自由）
（４）教育・研究に関わる著書，論文等の原本又は写　１部
（５）教育，学生指導および管理運営等に関する実績（本校様式）
（６）高専における教育・研究・学生指導等に関する抱負（Ａ４版，2000 字以内，書式自由）
（７）参考意見を求めることのできる方２名の氏名，所属，住所，連絡先
９．問い合わせ先：
〒042-8501　　函館市戸倉町 14 番１号
函館工業高等専門学校　一般科目理数系主任　新田　一夫
TEL&FAX：　0138 (59)6369 (直通)　　E-mail：　nitta@hakodate-ct.ac.jp
※　高専は業務内容において大学と異なる点がありますので，十分ご理解の上ご応募ください。なお，本校の概要，業務内容および公募についての詳細は，下記ホームページをご覧下さい。応募書類は，ホームページからダウンロードできます。
本校ホームページ：　http://www.hakodate-ct.ac.jp/
公募ホームページ：　http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w- g /koubo.htm
※　独立行政法人化により，地方公務員からの応募の場合は，従前の取扱いとは異なります。退職手当，賞与，休暇等については，民間企業からの採用と同様の取扱いとなりますので，特にご注意下さい。
10. 書類提出先：
〒042-8501　　函館市戸倉町 14 番１号
函館工業高等専門学校　校長　岩熊　敏夫
書類提出に関する連絡先：函館工業高等専門学校　総務課総務事務グループ（人事担当）
TEL: 0138 (59)6313　(直通)
FAX: 0138 (59)6310
※　封筒に「一般科目理数系教員応募」と朱書きの上，書留で郵送願います。
11. 選考方法
（１）書類審査
（２）面接及び必要に応じて模擬授業（実施時期は，１１月を予定しております。書類審査後，候補者に連絡いたします。なお，面接のための旅費は，個人負担となります。）
（３）結果通知（決定後，速やかに行います。）

（出典　総務課資料）

函館工業高等専門学校生産システム工学科教員の公募

１．職名及び人員：　下記（A）分野の准教授または助教１名，下記（B）分野の准教授または助教１名
２．所属学科　　：　生産システム工学科
３．専門分野　　：　（A）電気機器工学分野　（B）情報数理分野
４．主な担当教科：　平成 25 年度に機械，電気電子，情報工学科は各分野の融合を特徴とした新学科（生産システム工学科）に統合されます．(A) 平成 28 年度までは現行の電気電子工学科の電気磁気学，電気機器，工学実験，卒業研究（本科），特別研究（専攻科）などを担当，新学科電気電子コースでは電気機器，電気電子工学基礎実験，エネルギー基礎・応用実験などの科目も担当していただく予定．(B) 平成 28 年度までは現行の情報工学科の情報数学，情報理論，符号理論，数理計画法，工学実験，卒業研究（本科），応用解析学，数値解析論，特別研究（専攻科）などを担当，新学科情報コースにおいて，将来，セキュリティやパターン認識の科目も担当していただく予定．
５．応募資格：　高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有しかつ次の各号に該当する方．
（１）高専における教育，研究および学生指導（学級担任，寮生指導，課外活動等）と学校運営に理解と熱意のある方
（２）博士の学位または技術士の資格を有する方（採用予定日までに取得見込みの方を含む）
（３）共同研究，公開講座，生涯学習等地域貢献に意欲のある方
※本校は第３次男女共同参画基本計画，第４期科学技術基本計画および国立高等専門学校機構男女参画行動計画に基づき，女性研究者の増加を目指しておりますので，女性の方の応募を大いに歓迎します．
６．採用予定日：平成 25 年　4 月 1 日
７．応募期限：　平成 24 年 11 月 30 日（金）必着
８．提出書類：
（１）　履歴書(本校様式，写真貼付)
（２）　研究業績目録（本校様式）
（３）　研究業績概要（A4，1200 字以内で，これまでの研究業績全般について記述のこと．書式自由）
（４）　主要論文３編の別刷（コピーでも可）各３部
（５）　教育，学生指導および管理運営等に関する実績（本校様式）
（６）　着任後の教育，研究，学生指導等に関する抱負（A4，　2000 字以内，書式自由）
（７）　推薦書１通または照会可能な方（氏名，所属，住所，電話，FAX・E-mail アドレス等）２名
※　（１），（２）および（５）の書式は，下記公募のホームページからダウンロードできます．
９．問合せ先：
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番１号　函館工業高等専門学校
（A）電気電子工学科主任　森田孝　TEL＆FAX：0138 (59)6425，E-mail:morita@hakodate-ct.ac.jp
（B）情報工学科主任　太刀川寛　TEL＆FAX：0138 (59)6445　E-mail:tatikawa@hakodate-ct.ac.jp
高専は業務内容において大学と異なる点がありますので，十分ご理解の上ご応募下さい．
なお，本校の概要，業務内容および公募についての詳細は下記ホームページをご覧下さい．応募書式は，ホームページからダウンロードできます．
本校ホームページ：　http://www.hakodate-ct.ac.jp/
※　独立行政法人化により，地方公務員からの応募の場合は，従前の取扱いとは異なります．退職手当，賞与，休暇等については，民間企業等からの採用と同様の取扱いとなりますので，特に御注意下さい．
10．応募書類送付先：
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番１号
函館工業高等専門学校　学校長　岩熊　敏夫
書類提出に関する連絡先：函館工業高等専門学校　総務課総務事務グループ（人事担当）
TEL: 0138 (59)6313　(ダイヤルイン)，FAX: 0138 (59)6310
※　封筒の表に「生産システム工学科（(A) 電気機器工学分野、または (B) 情報数理分野）教員応募書類在中」と朱書きの上，書留で郵送願います．
11．選考方法：
（１）書類審査
（２）面接（書類審査後，連絡致します．なお面接のための旅費は自己負担となります．）

（出典　総務課資料）

資料３－２－１２

教員人事（内部昇任）に関する手続きについて

校長裁定：平成１４年２月２６日
改　　正：平成１４年４月３０日
一部改正：平成１９年４月　１　日
一部改正：平成２０年４月　１　日

平成 13 年 7 月より，国立高等専門学校の教授及び助教授（現 准教授）についての選考の権限が，文部科学大臣から校長に委任されました。これは，全国の高専が一律・横並びに進むことから脱却して，各高専が特色ある発展を目指すための改革の一環ということができます。これを機会に，本校の教育について特色ある発展を目指して，教員人事(内部昇任)に関する手続きを次のとおり定めます。

１．従来，文部科学省の審査委員会では，著書・論文等の｢研究｣内容を中心に評価されていたと思われるが，今後は｢研究｣のみならず，「教育」，「課外活動等の学生指導」，「校務分掌担当状況」，「その他の貢献」等も考慮し，総合的に評価する。
２．内部昇任に際しては，「研究」，「教育」，「課外活動等の学生指導」，「校務分掌担当状況」，「その他の貢献」の各項目について評価の基準を設定し，それに基づいて評価を行う。
（２）内部昇任に際しては，いくつかの最低基準を設ける。
３．内部昇任の発議は，教員選考部会が行う。
４．選考に際しては，次の資料を参考とするものとし，教員選考部会の座長が当該学科の選考委員に対して資料の作成及び取りまとめを依頼する。
　(1) 「教員業績調査表」（昇任候補者が校長宛提出済のもの）
　(2) 「教員選考資料要約（推薦書を兼ねる）」（学科の選考委員作成）（フォーマットⅠ）
　(3) 「自己推薦書」（昇任候補者作成）
　(4) 「履歴書」（昇任格候補者作成）
５．校長は，教員選考部会においてなされた審議を参考にして，各項目について審議経過をまとめる。
６．校長は，フォーマットⅡをもとに，当該昇任候補者に関する最終的な総評を行い昇任の可否を決定する。また，その結果を「フォーマットⅢ（総括および結論）」にまとめる。
７．校長は，選考に際して教員選考部会委員以外の主事，各種委員会委員長等の意見を求めることがある。
８．教員選考部会において審議されたすべての候補者についてのフォーマットⅠ～Ⅲは当委員会の記録として保存する。

（出典　総務課資料）

資料３－２－１３

非常勤講師任用数・単位数

● 非常勤講師任用者数･単位数　（平成23年度）

年度	国語		社会		倫理学		数学		応数･応物		理科		英語		ドイツ語		フランス語		ロシア語		スポーツ科学		留学生		機械		電気電子		情報		物質		環都		専攻科		計	
	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位
15年度	6		4				5		0		2		7		2		1				3		1		0		0		0		1		2				34	
		23	8					23		0		11		17		5		6				15		6		0		0		0		1		3				118
16年度	5		5				5		0		2		6		3		1				3		1		0		0		0		1		2		0		34	
		20	7					22		0		11		17		9		6				16		6		0		0		0		3		2		0		119
17年度	4		3				6		2		2		3		3		1				3		1		0		0		1		0		2		3		34	
		20	6					34		3		11		17		7		6				21		6		0		0		2		0		2		6		141
18年度	5		4				5		0		1		4		2		1				3		1		0		0		1		1		2		0		30	
		16	16					20		0		4		24		2		2				16		6		0		0		2		1		2		0		111
[illegible]			(2)	(14)																																	(2)	(14)
19年度	4		5		1		5		4		1		4		1		0		1		3		1		0		0		0		0		1		0		31	
		16	22		1			26		6		4		24		2		0		2		16		6		0		0		0		0		1		0		126
[illegible]			(2)	(14)																																	(2)	(14)
20年度	3		2		1		4		0		1		4		1		0		1		3		1		0		0		1		1		1		0		24	
		16	4		1			20		0		4		22		2		0		2		16		6		0		0		1		4		1		0		99
[illegible]																													(1)	(1)							(1)	(1)
21年度	4		3		1		5		0		1		3		1		0		1		2		1		1		1		0		1		2		1		28	
		30	6		1			30		0		4		21		2		0		2		12		6		1		5		0		4		1		2		127
[illegible]								(4)																														(4)
22年度	3		6		1		5		0		1		5		2		0		1		3		1		1		0		0		2		1		2		34	
		16	25		1			32		0		4		30		4		0		2		15		6		1		0		0		4		1		4		145
23年度	3		6		1		5		0		1		5		2		0		1		3		1		1		0		0		2		1		2		34	
		16	25		1			32		0		4		30		4		0		2		15		6		1		0		0		4		1		4		145

（参考）

○17年度　佐藏友信教員内地研究員（数学）14単位
　　教員急病のため（応用物理・応用数学）3単位
　　教員欠員のため（情報工学科）2単位
　　教員欠員のため（専攻科）6単位

○18年度　泊教員外地研究員（国語）　12単位

○19年度　菅教員外地研究員（応用数学）　6単位

○21年度　鳴海教員内地研究員（国語）　14単位

（出典：学生課資料）

資料３－２－１４

函館高専非常勤講師任用に関する申し合わせ

○函館工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

昭和 62 年 7 月 6 日
函高専達第 1 号

（趣旨）

1 函館工業高等専門学校(以下「本校」という。)における非常勤講師の任用については，教育効果の向上と人事管理等適切に行うため，この申し合わせによるものとする。

（任用基準）

2 非常勤講師は，優れた識見をもち，本校の教育方針に添つた教育指導のできる者で，次に該当するものとする。

(1) 高等専門学校設置基準(昭和 36 年 8 月 30 日文部省令第 23 号)に定められた講師以上の資格を有すること。

(2) 69 歳未満(各年度の 4 月 1 日現在)であること。

(3) 心身ともに健全であること。

（任用方法）

3 任用は選考により行う。

(1) 選考は，年次計画に基づき作成された任用候補者名簿の中から，校長が行う。

(2) 任用候補者名簿は，教務主事が学科主任等の協力を得て作成するものとする。

（選考書類）

4 選考に必要な書類は，次に掲げるものとする。

(1) 履歴書(教育指導歴，研究歴を含む)

(2) その他必要と認める書類

（特例）

5 特別な事情により，この申し合わせにより難い場合は，校長は別段の取扱いをすることができる。

（事務）

6 事務は，総務課人事係で処理する。

附　則

この申し合わせは，昭和 62 年 7 月 6 日から施行し，昭和 63 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は，平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

（出典：規程集）

資料３－２－１５

非常勤講師任用に係る打ち合わせ会議議事録

平成２３年度非常勤講師任用に係る打合せ会議について

日　　時　　平成２３年　１月　７日（金）　１４時３０分～１５時２５分
場　　所　　共用会議室
出 席 者　　岩熊校長（オブザーバー）
　　切明教務主事，浜専攻科長
　　学科主任（祐延，木村，太刀川，鹿野，藤原（隆），松代，福島），臼田
　　小林学生課長，柄澤学生課長補佐，芳賀総務課専門職，守谷学務事務ｸﾞﾙｰﾌﾟ員
（議　　事）
◎　平成２２年度非常勤講師の申請について
　資料に基づいて各主任から以下のとおり説明があった。

１．一般科目（人文系）について
松代一般科目（人文系）主任から，以下のとおり説明があった。
○国語
継続者３名（１６単位分）を申請する。
○社会
継続者３名（４単位分）を申請する。
○倫理学
新規１名（１単位分，採用実績有り）を申請する。
○英語
継続者４名（３０単位分）を申請する。（臼田教員より）
２３年度は，電子教材（ＣＡＬＬシステム）の保証期間が切れる初年度のため，　２２年度同様常勤教員にゆとりを持たせ，トラブル等に対応できる態勢でありたい。
○ロシア語
継続者１名（２単位分）を申請する。
○スポーツ科学
継続者３名（１５単位分）を申請する。

２．一般科目（理数系）について
福島一般科目（理数系）主任から，以下のとおり説明があった。
○数学
継続者４名及び新規２名（３６単位分）を申請する。
佐藤友信教員の病状が安定しないため２２年度より４単位増で申請する。
○理科
継続者（物質工学科での採用実績有り）１名（４単位分）を申請する。

３．機械工学科について
祐延学科主任より，継続者１名（本科５単位，専攻科２単位）及び，現在マイスターとして本校で指導を行っている元技術職員１名（本科２単位分）を新規に申請する旨の説明があった。

４．電気電子工学科について
木村学科主任より，三島先生の教員交流に伴い北海道電力株式会社の２名（４単位分）を新規に申請する旨の説明があった。

５．物質工学科について
鹿野学科主任より，継続者２名（本科４単位分，専攻科２単位分）及び，現在本校教員１名（本科３単位分）を新規に申請する旨の説明があった。

６．環境都市工学科について
藤原学科主任より，継続者１名（１単位分）を申請する旨説明があった。

７．留学生について
切明教務主事から，継続者１名（６単位分）を申請する旨の説明があった。当該教員については，申し合わせにある年齢制限を越えているが，後任にふさわしい方を探してもらっており，留学生の心情を踏まえ２４年度は現非常勤講師と新規非常勤講師の２名態勢で授業を担当し，徐々に新規非常勤講師へ交代していくことを予定している旨の説明があった。

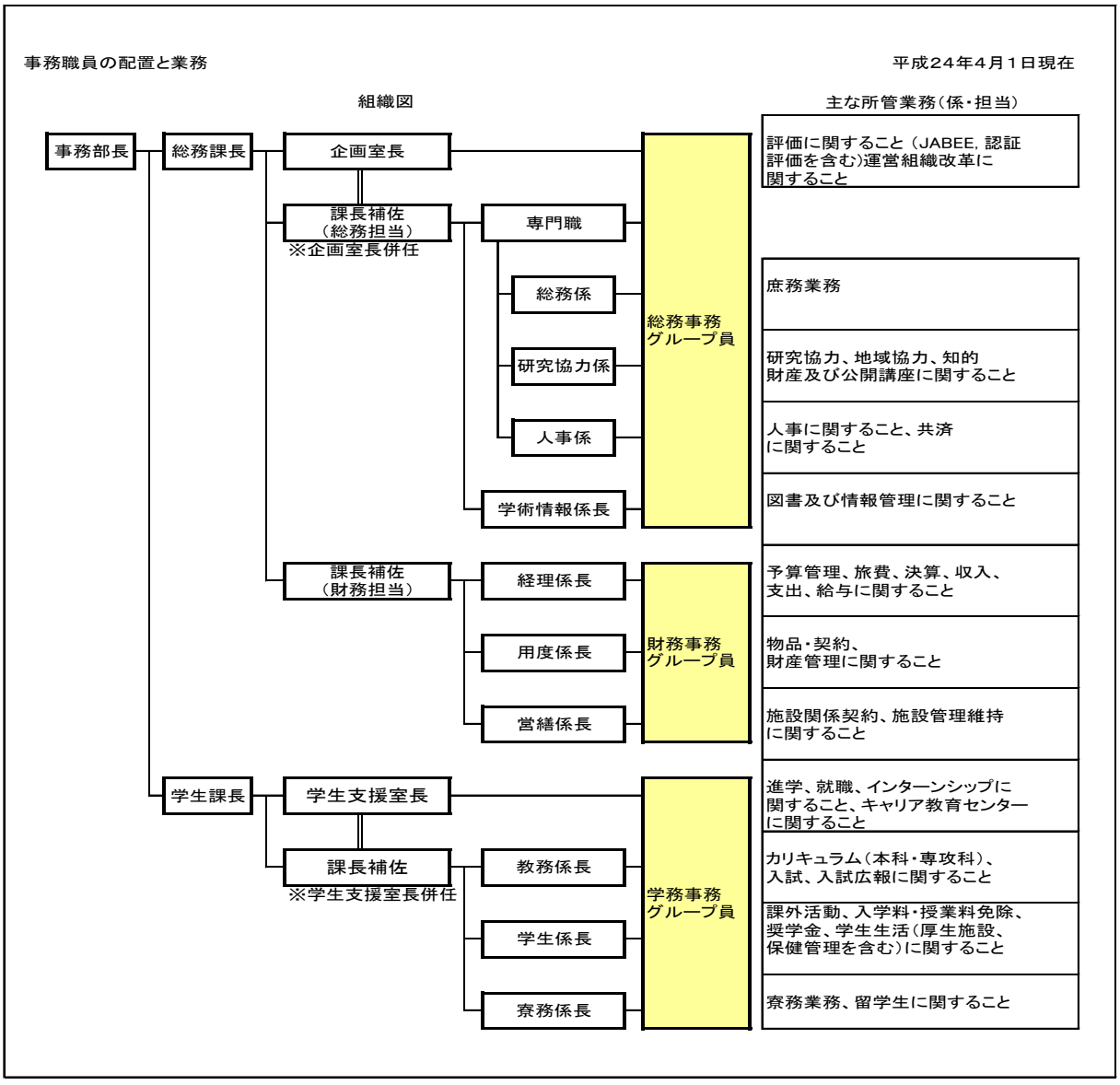
以上，各々の説明があった後，１月２４日の運営委員会までに校長が判断することとなり，申請のあった非常勤講師全員を任用候補者とすることが認められた。

なお，校長から来年度以降の非常勤講師任用に係る打合せ会議は年度の早い時期（前期のうち）に行うこと，また，女子学生に配慮してスポーツ科学の非常勤講師に女性を任用することなどが提案された。

（出典　平成23年度非常勤講師任用に係る打合せ会議　議事録）

資料３－３－１

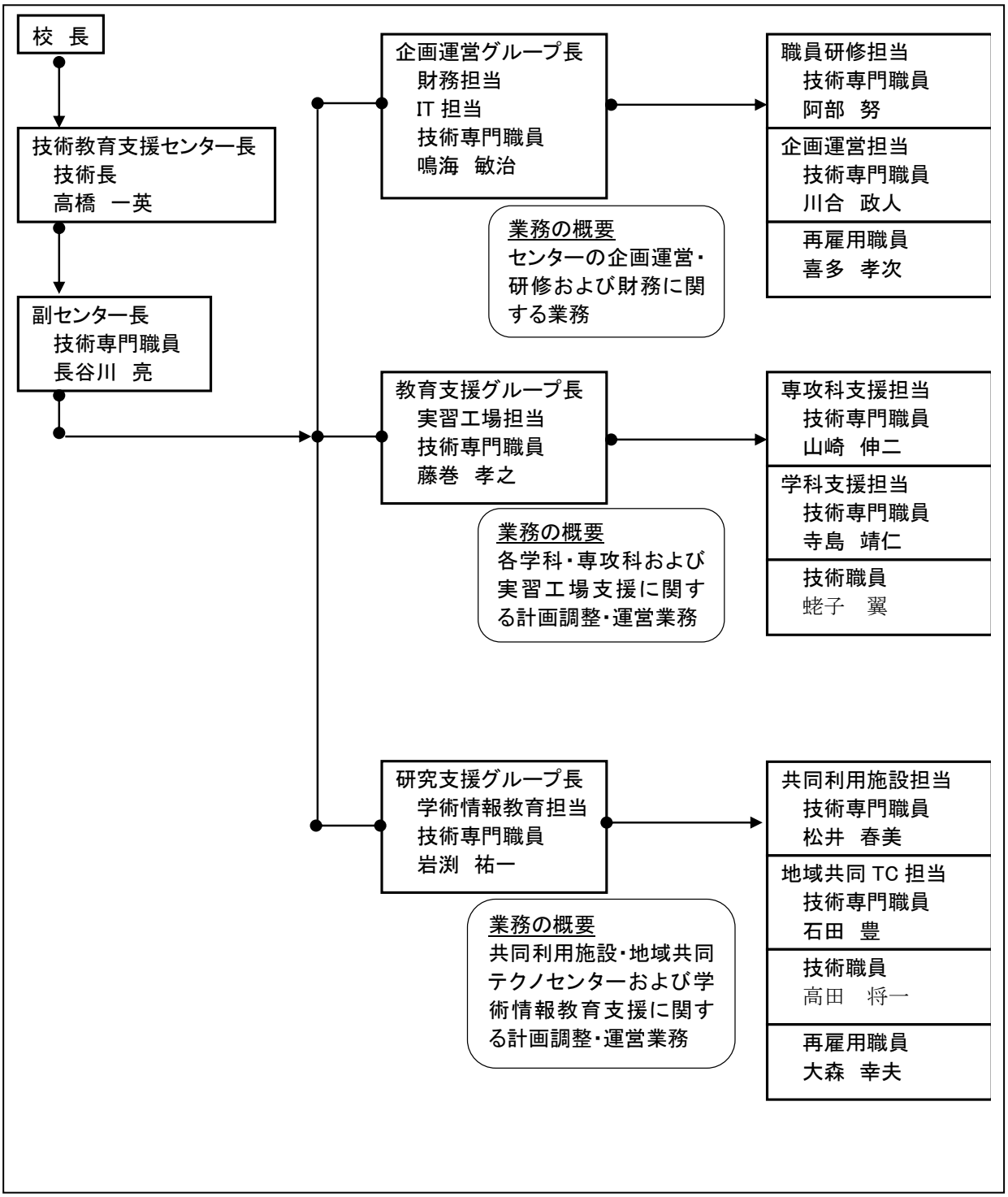
事務職員の配置と業務



（出典　事務部資料）

資料３－３－２

技術教育支援センターの組織および業務内容



（出典：技術教育支援センター資料）

資料３－３－３

技術教育支援センター支援業務表

技術教育支援センター支援業務表

職員	所属および主な関連学科	主な専門分野	主な教育支援業務	共同利用施設運営管理支援
高橋　一英	技術教育支援センター長 機械工学科	機械	1年機械工作実習・2年機械工作実習・3年機械工作実習・　2，3年創造演習ⅡⅢ・1年電気創造ﾃﾞｻﾞｲﾝ	実習工場
長谷川　亮	技術教育支援副センター長 電気電子工学科	電気	3年工学基礎実験Ⅱ・4年工学応用実験Ⅰ・4年創造実験・　1，2，3年ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	ネットワーク管理室
鳴海　敏治	企画運営グループ長 情報工学科	情報	1，2，3年ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習・1年情報処理基礎・ 2，3，4，5情報工学実験・3年ﾃﾞｼﾞﾀﾙ通信・2，4年創造実験	ネットワーク管理室
阿部　努	企画運営グループ 機械工学科	機械	1年機械工作実習・2年工作実習・3年工作実習・ 2，3年創造演習ⅡⅢ・1年電気創造ﾃﾞｻﾞｲﾝ・1年機械創造演習	実習工場 電子顕微鏡室
川合　政人	企画運営グループ 機械工学科	機械	1年機械創造演習・2，4年機械設計製図・2，3年創造演習ⅡⅢ・2年情報処理演習・4年機械工学実験・5年機械工学実験・　専攻科特別実験	創造工房
喜多　幸次	企画運営グループ 電気電子工学科	電気	2年工学基礎実験Ⅰ・2年創造実験・5年工学応用実験Ⅱ・　1，2，3年ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ・2年デジタル回路Ⅰ・3年デジタル回路Ⅲ	ネットワーク管理室
藤巻　孝之	教育支援グループ長 機械工学科	機械	1年機械工作実習・2年工作実習・3年工作実習・ 2，3年創造演習ⅡⅢ・1年電気創造ﾃﾞｻﾞｲﾝ・4年機械工学実験	実習工場
山崎　伸二	教育支援グループ 一般科目，機械工学科	化学	1年情報処理基礎・1，2年一般物理実験・4年応用物理	ネットワーク管理室
寺島　靖仁	教育支援グループ 情報工学科	情報	1，2，3年ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習・1年情報処理基礎・ 2，3，4，5年情報工学実験・5年画像情報処理・2，4年創造実験・　2年ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｱｰｷﾃｸﾁｬ	ネットワーク管理室
蛯子　翼	環境都市工学科	土木	2年測量実習・4年測量実習 ・4年環境都市工学実験・5年環境都市工学実験・	実習工場
岩渕　祐一	研究支援グループ長 環境都市工学科	土木	2年測量実習・3年測量実習 4年環境都市工学実験・5年環境都市工学実験・3年建設CAD・専攻科特別実験	ネットワーク管理室
松井　春美	研究支援グループ 物質工学科	化学	1年基礎化学実験・2年一般化学Ⅱ・2年物質工学実験・ 2年物質創造実験・3年物質工学実験Ⅱ・4年機器分析	電子顕微鏡室
石田　豊	研究支援グループ 機械工学科	機械	1年機械工作実習・2年工作実習・3年工作実習・ 2，3年創造演習ⅡⅢ・1年電気創造ﾃﾞｻﾞｲﾝ・専攻科特別実験	実習工場
高田　将一	物質工学科	化学	1年基礎化学実験・2年一般化学Ⅱ・2年物質工学実験・ 2年物質創造実験・3年物質工学実験Ⅱ・4年機器分析	電子顕微鏡室
大森　幸夫	研究支援グループ	ﾈｯﾄﾜｰｸ	ネットワーク管理維持管理・共同情報演習室維持管理・無線LAN	ネットワーク管理室 情報処理演習室3室

（出典：技術教育支援センター資料）

資料３－３－４

技術教育支援センターの研修体制

技術教育支援センターの研修体制（平成２３年度）

～平成２３年度の実施～

１）平成２３年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）

平成２３年８月３０日～９月１日

長岡技術科学大学

参加者：研究支援グループ　松井　春美　技術専門職員　（口頭発表）

２）平成２３年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修（システム・情報分野）

平成２３年８月２９日～３１日

北海道大学

参加者：教育支援グループ　寺島　靖仁　技術専門職員

３）第３回高専技術教育発表会 in 木更津

平成２４年３月５日～６日

木更津工業高等専門学校

参加者：教育支援グループ長　藤巻　孝之　技術専門職員　（口頭発表）

４）平成２３年度実験・実習技術研究会 in 神戸

平成２４年３月１４日 ～ １５日

神戸大学

参加者：副センター長　長谷川　亮　技術専門職員　（口頭発表）

研究支援グループ　石田　豊　技術専門職員　（聴講参加）

５）平成２３年度北海道地区４高専連携による技術職員ＳＤ研修会

平成２４年３月８日

函館工業高等専門学校

参加者：技術教育支援センター職員全員

（出典：技術教育支援センター資料）

技術教育支援センターの研修体制（～平成２４年度の実施予定～）

１）平成２４年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（建設・環境系）

平成２４年８月２２日～２４日
長岡技術科学大学
参加者：研究支援グループ長　岩渕　祐一　技術専門職員　（口頭発表）

２）第４回高専技術教育発表会 in 木更津

日程：未定
木更津工業高等専門学校
参加者：研究支援グループ　石田　豊　技術専門職員　技術専門職員　（口頭発表）

３）平成２４年度愛媛大学総合技術研究会

平成２５年３月７日～８日
愛媛大学
参加者：研究支援グループ　松井　春美　技術専門職員　（口頭発表）

４）平成２４年度北海道地区４高専連携による技術職員ＳＤ研修会

日程：未定
苫小牧工業高等専門学校
参加者：高橋　一英，岩渕　祐一，石田　豊，蛯子　翼，高田　将一

５）平成２４年度初任職員研修会

平成２４年４月２５日～２７日
独立行政法人国立高等専門学校機構
参加者：蛯子　翼，高田　将一

（出典：技術教育支援センター資料）